

5. 肝付町の情報化に関する現状

5.1 地域の情報化の現状

5.1.1 情報通信ネットワークの整備状況

肝付町では、平成 19 年度より実施を進めている「第一次肝付町総合振興計画」において掲げる「情報通信基盤の整備」の具体的な事業展開に向け、平成 22 年度より、町内全域を対象とした光ファイバー網の整備を進めており、平成 23 年 6 月以降には肝付町の全世帯で F T T H サービスを受けられる環境が整い、およそ 3,000 世帯ほどあった、ブロードバンドゼロ地域が解消される予定です。

図 5-1-1-1 ADSL サービス提供状況

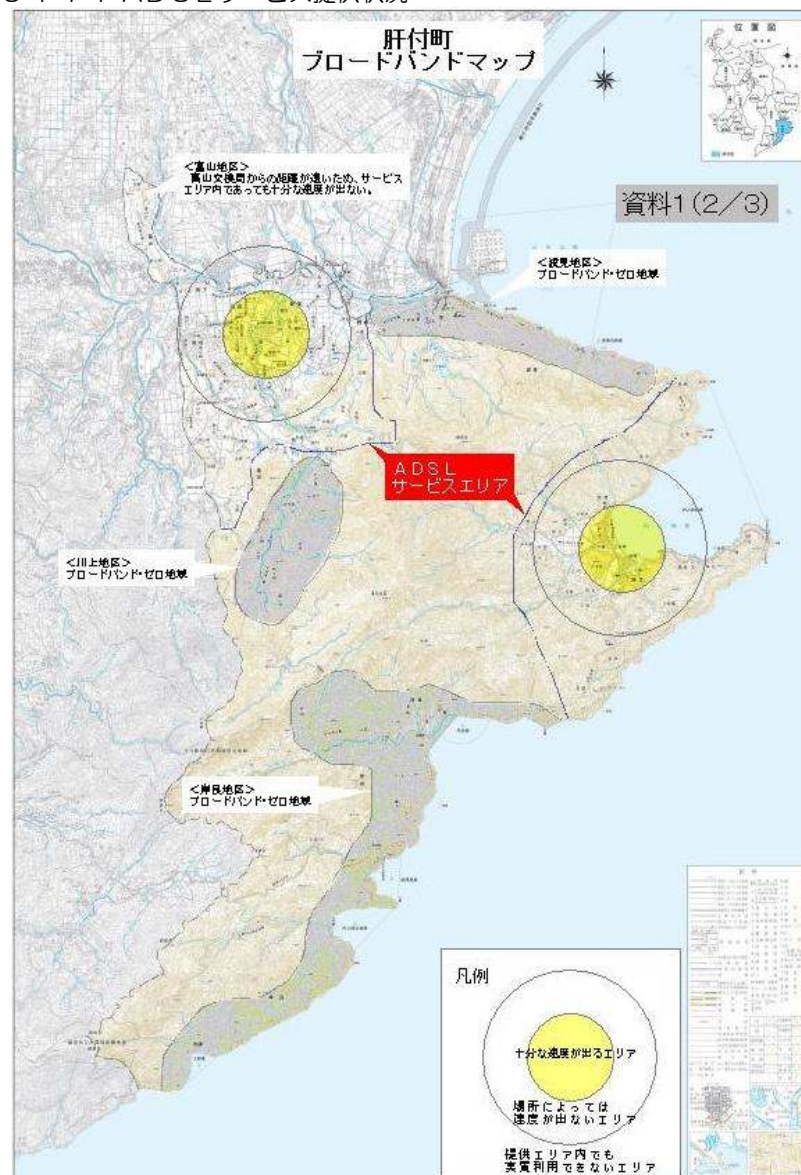
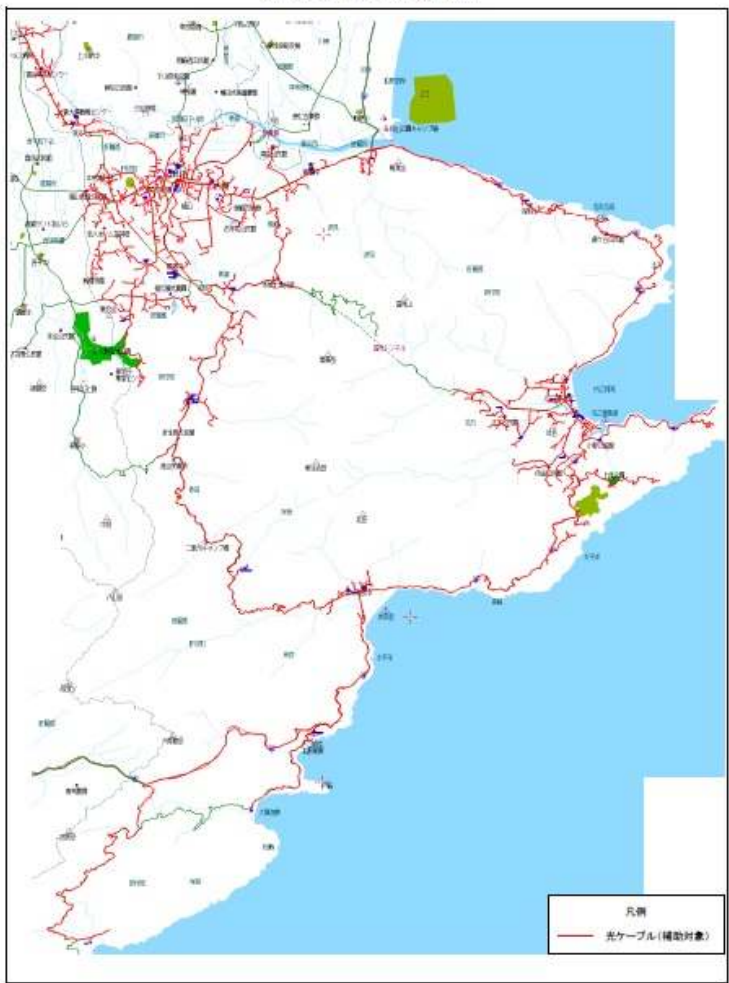


図 5-1-1-2 ADSL 受信速度状況

△:速度が遅い
×:利用できない

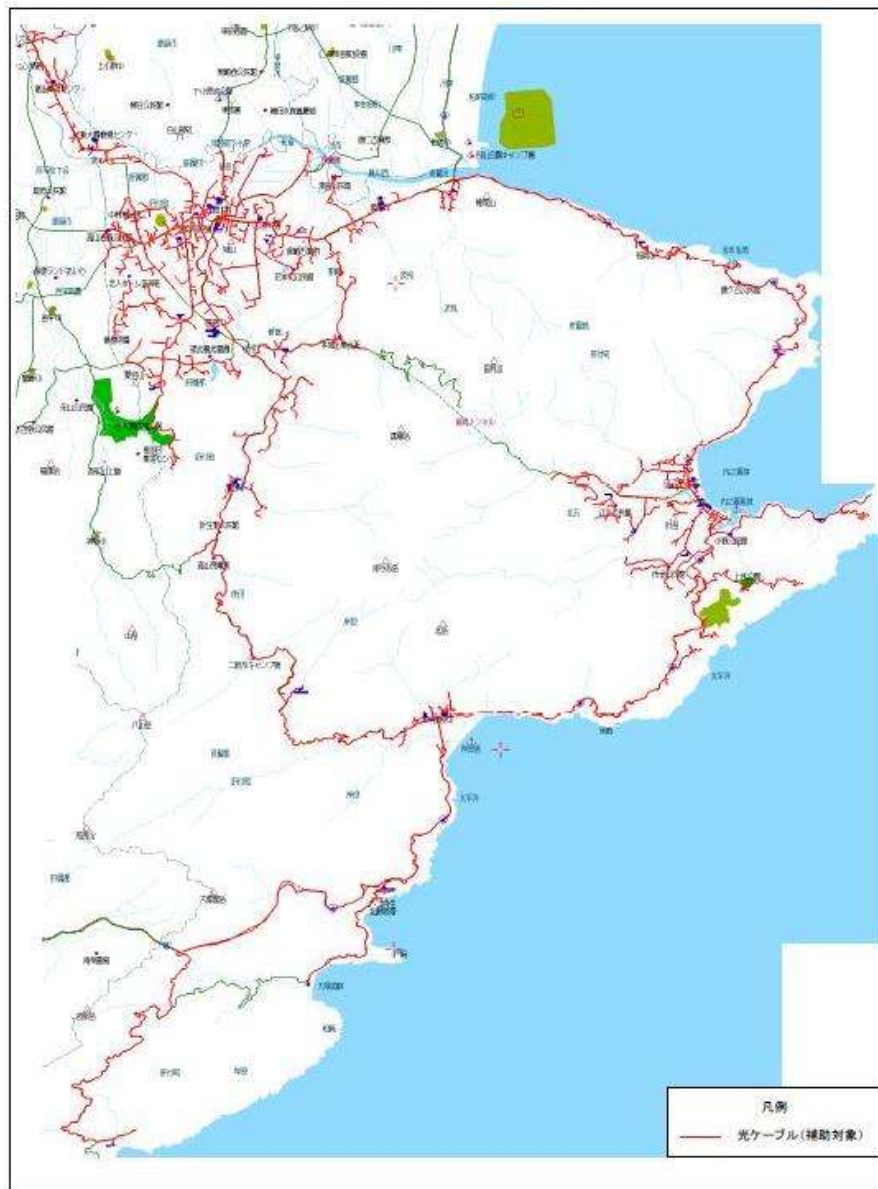
番号	振興会	世帯数	BB区分	番号	振興会	世帯数	BB区分	番号	振興会	世帯数	BB区分
1	飯ヶ谷	22	×	21	池之園	123	△	41	折生野	34	×
2	有明山下	39	×	22	協和	32	△	42	宮下川南	137	△
3	飯屋	40	×	23	谷山迫	36	△	43	宮下川北	98	△
4	西飯屋	31	×	24	笹ヶ尾	47	△	44	富山	265	△
5	一ツ松	25	×	25	鳥越	57	△	45	小串	39	△
6	柳井谷	20	×	26	大窪	43	△	46	馬込	48	△
7	浦町	50	×	27	永野	79	△	47	赤木屋	24	△
8	波見下	45	×	28	後田西山下	71	△	48	津代	26	△
9	轟	67	×	29	後田東山下	17	△	49	宮原	26	△
10	荒瀬	67	×	30	染木	66	△	50	川口	12	×
11	平後園	87	×	31	白坂	113	△	51	港	53	×
12	和田	55	△	32	中原	51	△	52	東	95	×
13	東大園	43	△	33	瀬戸宇治	13	△	53	本地	85	×
14	西大園	33	△	34	本城下	52	△	54	下西	37	×
15	上大園	4	△	35	本城中	25	△	55	上西	30	×
16	上原	37	△	36	本城上	34	△	56	大原	17	×
17	安野	11	△	37	寺之上	33	×	57	姫門	10	×
18	塚崎	39	△	38	石之脇	35	×	58	浜	71	×
19	津曲	55	△	39	岩屋	45	×	59	船間	33	×
20	水窪	21	△	40	片野	53	×	60	辺塚	13	×
								61	大浦	19	×
								計		2,988	—

図 5-1-1-3 F T T H整備状況（整備後）



また、地上デジタル放送の難視聴地域においても、町内に構築する光ファイバー網を利用した再送信サービスを行うため、解消される予定です。これにより、肝付町の情報通信ネットワークは都心部と遜色のない環境を有することになります。

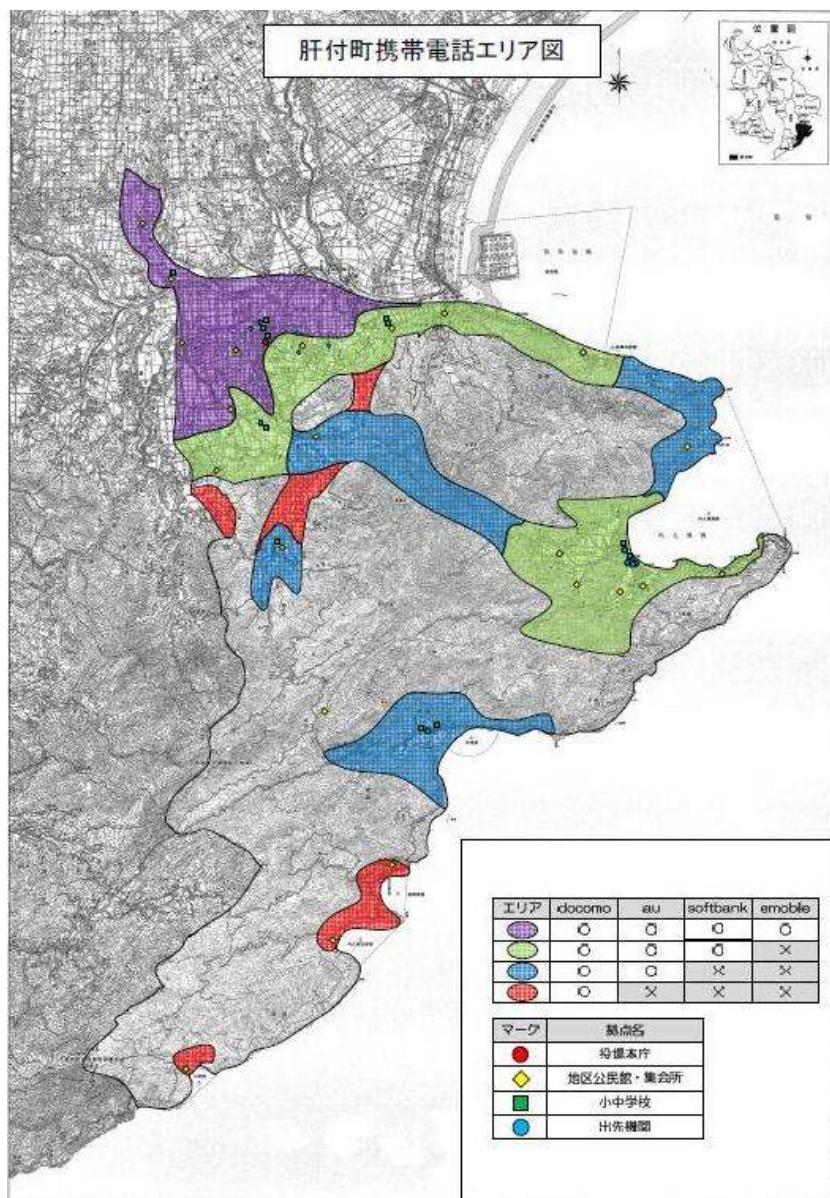
図 5-1-1-4 地上デジタル放送難視聴エリア



5.1.2 携帯電話の通話エリア

現在、肝付町で利用できる携帯電話キャリアは、NTTドコモ、au、ソフトバンクモバイル、イーモバイルであり、居住地域のほぼ全域で、いずれかのキャリアが利用可能となっています。

図 5-1-2-1 携帯電話サービスエリア



5.2 肝付町役場における情報システムの状況

肝付町役場では、現在、総合行政システムが運用中ですが、当該システムに関しては、今回の光ファイバー網の整備と合わせて、全面的刷新も予定されており、現在、ネットワーク部分と基幹システムの更新作業の計画を進めているところです。また現在、役場内各組織においては、以下のような多くの個別システムが運用中であり、総合行政システムの更新と併せ、今後、それらの個別システムの統合・連携等も積極的に進め、町役場全体としての情報システムの更なる効率化を図れるような取り組みに関しての検討も進めています。

表 5-2-1 (1) 各課が所有するシステム

部署	システム名	NW 接続	作成者	備考
建設課建設係	土木積算システム (E S T I M A V 5)	NW	外注	
	道路台帳閲覧システム	NW	外注	EXCEL
	鹿児島県市町村電子入札システム		外注	
耕地課農地整備係	災害復旧事務システム		外注	
総務課管財係	公有財産検索システム		外注	
住民課戸籍住民係	戸籍情報システム	NW	外注	
	住民基本台帳ネットワークシステム	NW	外注	
	公的個人認証サービスシステム	NW	外注	
住民課国保年金係	後期高齢者広域連合電算処理システム	NW	外注	
	特定健診等データ管理システム	NW	外注	
	レセプト管理システム	NW	外注	
	国保情報データベースシステム	NW	外注	
	国保ネットかごしま	NW	外注	
税務課庶務係	法人町民税管理			EXCEL、ACCESS
	地籍情報管理システム	NW	外注	
	家屋評価システム	NW	外注	ACCESS
税務課賦課係住民税担当	国税連携システム e-TaxViewer	NW	外注	
県立病院	給与大臣		外注	
	医療事務システム (HOPE / S X - J)		外注	
	意見書システム Ver 3.1.2		外注	
	健診 F D チェックシステム		外注	ACCESS
	薬在師 Ver 4		外注	
	臨床検査システム		外注	CLIP
	臨床検査システム		外注	WOLF
	臨床精度管理システム		外注	SUCCESS
耕地課農地整備係	標準積算システム鹿児島県版	NW	外注	
福祉課介護保健係	要介護認定支援システム「Caessant」	NW	外注	厚生労働省認定
	包括支援システム (要援護台帳システム)	NW	外注	
	介護保険事務システム (ライフパートナー)	NW	外注	
	地域包括支援センターシステム (楽ちゃ LA およびほのぼの)	NW	外注	
	地域包括支援センター介護予防マネジメントシステム		外注	

表 5-2-1 (2) 各課が所有するシステム

部署	システム名	NW 接続	作成者	備考
企画課情報政策係	肝付町地図情報システム（WEBGIS）	NW	外注	Sonicweb
	総合行政システム	総合	外注	
	庁内情報の共有ツール及びメールクライアント	NW	外注	LotusDomino
耕地課地籍調査係	地籍管理システム	NW	外注	
総務課行政係	例規閲覧システム	NW	外注	

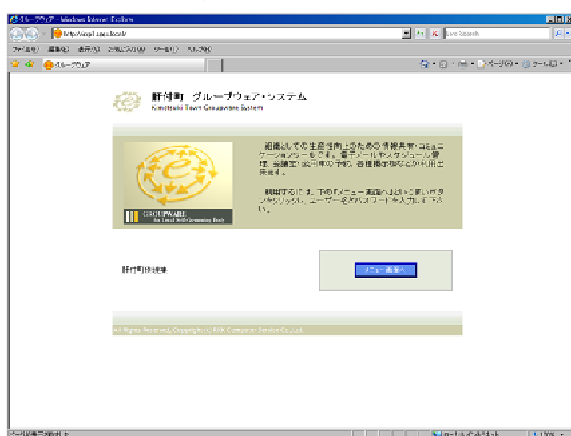
【総合行政システム】



【WEBG | Sシステム】



【グループウェア、メールクライアント】



【戸籍情報システム】



表 5-2-2 総合行政システム 機能一覧

項システム名称	システム形態備	項システム名称	システム形態備
住民記録	Web	精神手帳	MetaCS
宛名管理(住登外)	Web	障害者福祉サービス	MetaCS
外国人登録	Web	施設入所	MetaCS
印鑑登録・証明	Web	心身障害者手帳管理	MetaCS
住基ネット(連携)	Web	介護保険	MetaCS
選挙	Web	検診票作成	MetaCS
農業委員会選挙	Web	受診データ管理	MetaCS
交通災害共済	Web	健康教室	MetaCS
教育	Web	予防接種管理	MetaCS
児童手当	Web	乳幼児管理	MetaCS
国民年金	Web	畜犬管理	MetaCS
福祉年金	Web	財務会計	Web
老人保健	Web	起債管理	Web
国民健康保険	Web	備品管理	Web
高額療養費	Web	人事管理	Web
老人高額医療費	Web	給与計算	Web
保育料	Web	公営住宅	Web
住民税	Web	水道料金	Web
固定資産税	Web	農家台帳	MetaCS
軽自動車税	Web	公営企業会計	MetaCS
国民健康保険税	Web	契約管理	Web
家屋評価	MetaCS	備品管理	Web
収納消込	Web	消防団管理	Web
口座	Web	滞納整理支援	Web
OCR日計	Web	後期高齢者医療	Web
重心医療	MetaCS	定額給付金	Web
母子医療	MetaCS	子育て応援特別手当	Web
乳幼児医療	MetaCS	子ども手当	Web
補そう具	MetaCS	国民投票	Web
自立支援医療	MetaCS	文書管理	Web

5.3 住民アンケート

5.3.1 アンケート調査概要

(1) アンケート調査について

町民のＩＣＴ利活用の実態等を把握するため、肝付町総世帯数 7,495 世帯の中から、1,800 世帯を無作為に選出し、アンケート調査を行いました。

①配布数について

カテゴリー数を年齢別の 7 区分とした場合、有効標本数は 537 件となりました。過去の実績から回収率を 30%と想定した場合、1,792 世帯へ配布する必要があったため、1,800 世帯への配付とし、振興会経由で配付しました。

②配付世帯抽出

町役場のデータから以下の年齢比率で無作為に抽出しました。

③実施期間

平成 23 年 2 月 22 日（火） 振興会経由で一斉配付

平成 23 年 3 月 11 日（金） 締切日

④回収方法及び回収結果

回収は返信用封筒で郵送としました。その結果、全体で 749 件の回収となり、回収率は 41.6%となりました。（表 5-3-1-1）

表 5-3-1-1 配布数及び回収率

年齢区分	年齢別人口 (人)	分布比率 (%)	調整後 配付比率 (%)	配付数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)	回収 分布率 (%)
18～19 歳	274	1.8	1.8	32	8	25.0%	1.1%
20～29 歳	1,256	8.2	8.2	148	38	25.7%	5.1%
30～39 歳	1,514	9.9	9.9	178	58	32.6%	7.7%
40～49 歳	1,784	11.7	16.7	301	107	35.5%	14.3%
50～59 歳	2,671	17.4	22.5	405	164	40.5%	21.9%
60～64 歳	1,476	9.6	14.6	263	125	47.5%	16.7%
65～79 歳	6,321	41.3	26.3	473	244	51.6%	32.6%
年齢無回答					5		0.6
合計	15,296	100	100	1,800	749	41.6%	100.0%

⑤調査内容：質問項目 37項目

- ・ 基本的事項（5質問）
年齢区分、性別、職業、居住地区など
- ・ 暮らしに関する事項（4質問）
肝付町に住むきっかけ、買い物、通院などの暮らしに関する事項など
- ・ 情報の入手に関する事項（2質問）
世間一般の情報と肝付町内の情報の入手方法
- ・ 情報環境に関する事項（10質問）
携帯電話、パソコンの所有や利用方法など
- ・ インターネットの利用に関する事項（9質問）
インターネットの利用実態、利用料金に関する事項
- ・ 肝付町で敷設される光ファイバによるインターネットに関する事項（5質問）
理解度や申込み状況
- ・ 肝付町の将来に関する事項（2質問）
利用したいサービス、推進すべき事項

5.3.2 アンケート結果

（2）アンケート調査について

40%を超える回収率、またコメント欄への記入も 200 件を超え、町民の情報化に関する意識の高さがわかりました。

① 基本的事項について

60 歳以上からの回答が全体の約半分を占めており（グラフ 5-3-2-1）、回収率で見た場合も、60 歳未満の回収率が約 35%に対し、60 歳以上の回収率は 50%を超えており（表 5-3-1-1）、高齢者の意思が大きく反映された結果となりました。

また、性別で見ると男性が約 40%、女性が約 60%の割合となりました。（グラフ 5-3-2-2）

職業別では、“年金受給者”が 20%で一番多く、又“主婦”は専業、パート、アルバイトを合わせると、全体の 23%となり、年齢区分と性別区分の回収率が反映された結果となりました。

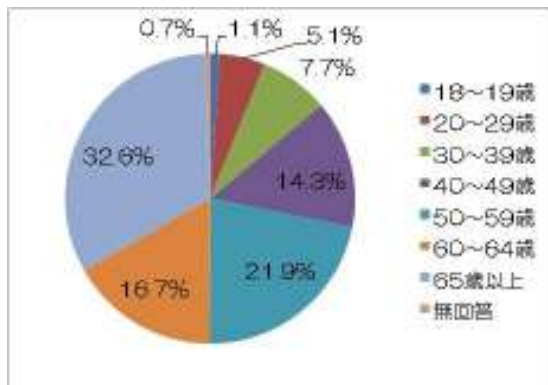
（グラフ 5-3-2-3）

地区別で見ると、回答者のうち“高山地区”と“内之浦地区”の比率は、高山地区 74%、内之浦地区 26%となりました。

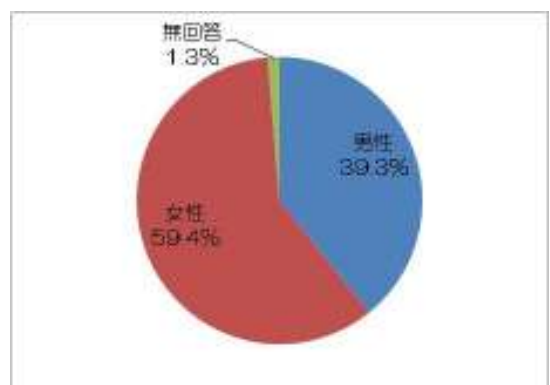
（グラフ 5-3-2-4）。平成 22 年度の人口比率（速報値）では高山地区 75%、内之浦地区 24%となっていますので、地区分布的には良好な結果となりました。職場の場所については、“町内就業者”が 432 人であり、回答者全体の比率では 72%となりました。

（グラフ 5-3-2-5）

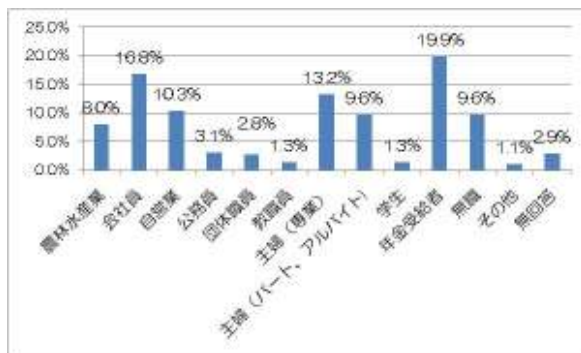
グラフ 5-3-2-1 年齢区分



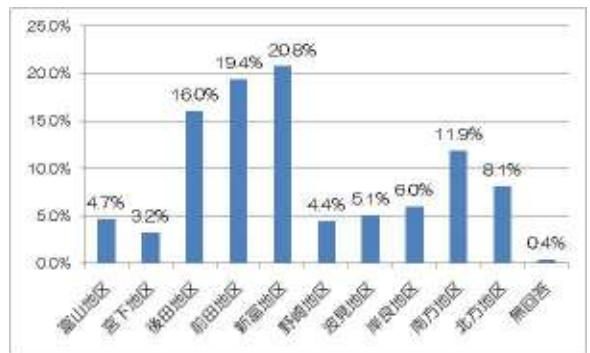
グラフ 5-3-2-2 性別



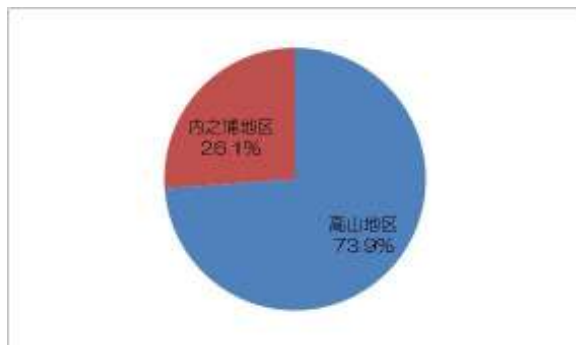
グラフ 5-3-2-3 職業区分



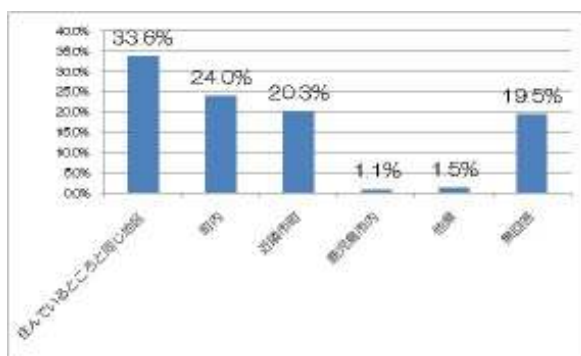
グラフ 5-3-2-4 居住地区



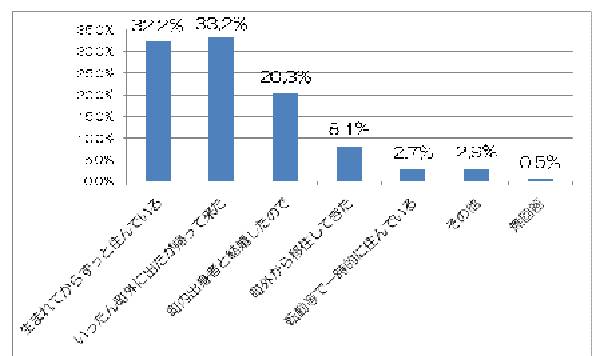
グラフ 5-3-2-4-1 高山地区、内之浦地区区分



グラフ 5-3-2-5 職業場所



グラフ 5-3-2-6 住むきっかけ



② 暮らしに関する事項について

生まれてからずっと“肝付町に住んでいる人”は、241 人であり、全体に対して 32%との結果となった。これに対して“Uターン者数”は 249 人と、ほぼ同じ割合の 33%となりました。

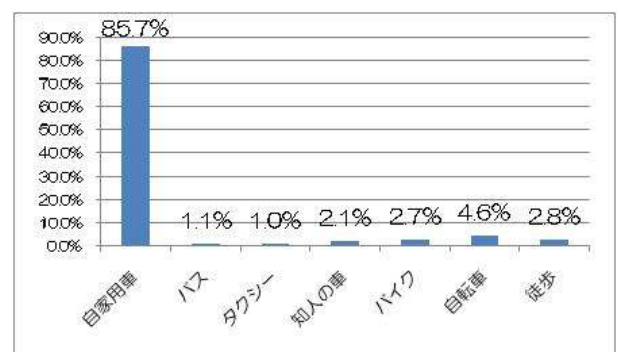
(グラフ 5-3-2-6)

日用品の買い物は回答者のうち 68%の人が“町内”で済ませているものの(グラフ 5-3-2-7)、移動手段は 86%の人が“自家用車”を利用されており(グラフ 5-3-2-8)、日常生活においては“自家用車”が最も必要とされています。

グラフ 5-3-2-7 日用品の買物場所

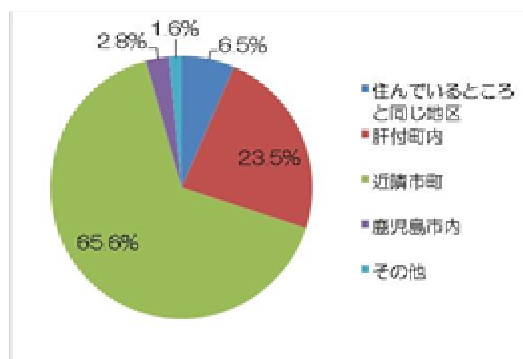


グラフ 5-3-2-8 主な移動手段

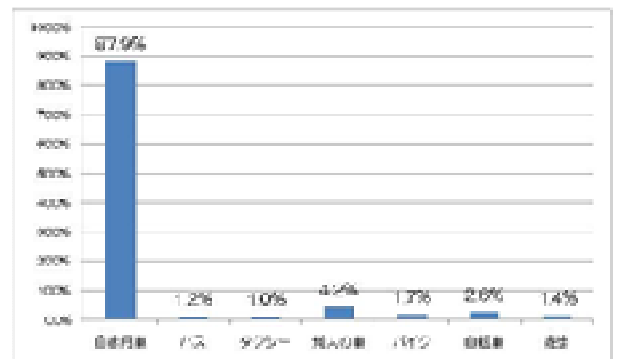


日用品以外の買い物について“町内”で買い物をされる方は、29%にとどまり、“近隣市町”で買い物をされている方が、66%となりました。(グラフ 5-3-2-9) また、このうち 88%の方が“自家用車”を利用されており(グラフ 5-3-2-10)、日用品の買い物と同じ傾向となりました。

グラフ 5-3-2-9 日用品以外の買物場所



グラフ 5-3-2-10 主な移動手段



医療機関に関しては、“近隣市町の病院”を利用されている方が回答者のうち 53%と一番多く、“肝付町内の病院”を利用されている方は、42%となりました。(グラフ 5-3-2-11)

また“鹿児島市内の病院”を利用されている方も 3%います。

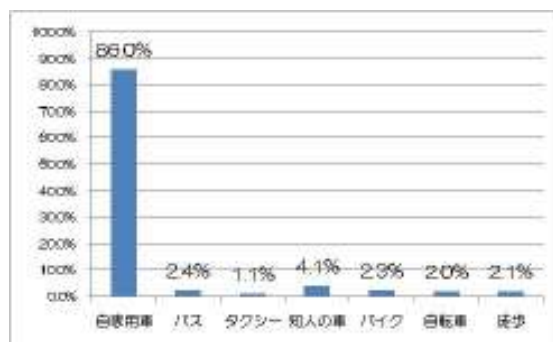
通院手段としては、86%の方が“自家用車”を利用されています。

(グラフ 5-3-2-12)

グラフ 5-3-2-11 医療関連場所



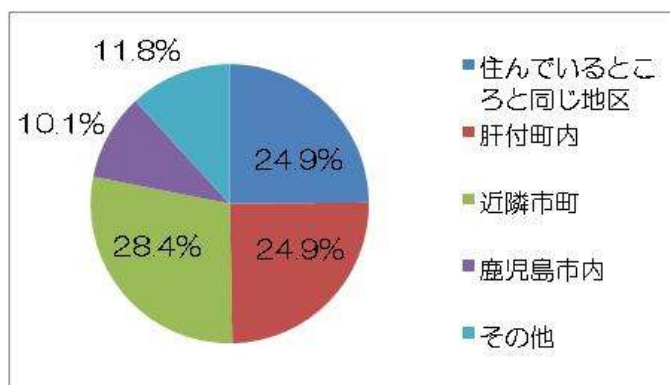
グラフ 5-3-2-12 医療関係手段



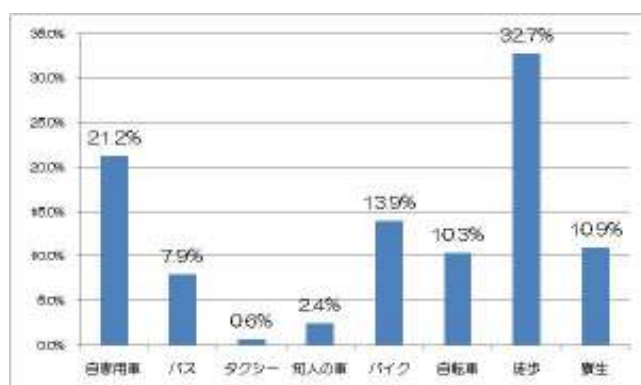
“肝付町内の学校”に通学されている方が回答者のうち50%となりました。そのうち半分は住んでいるところと同じ地区です。“近隣市町や鹿児島市内”まで通学されている方は38%となりました。(グラフ 5-3-2-13)

また、学校までの移動手段としては、“徒歩や自転車等”、人力による移動手段が43%占めているものの、“自家用車等の乗り物”を利用されている割合も46%となりました。また、“寮を利用”されている方が11%になりました。(グラフ 5-3-2-14)

グラフ 5-3-2-13 学校の場所

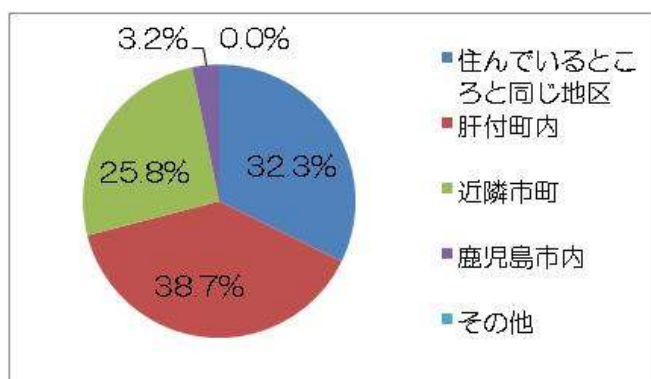


グラフ 5-3-2-14 学校までの移動手段

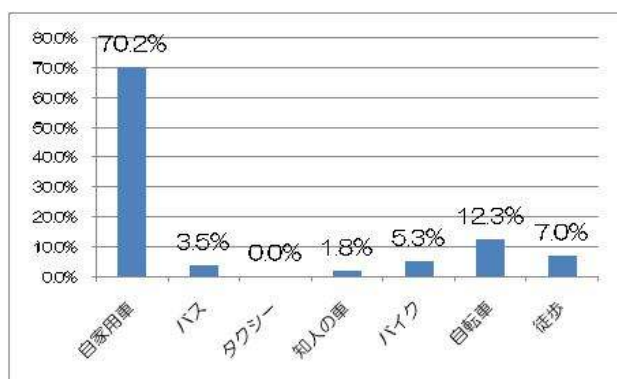


一方、学習塾に関しては、“肝付町内の塾”を利用されている方が61%となりました。(グラフ 5-3-2-15) ただし、移動手段については、アンケート対象者が成人のため、“自家用車の利用”が70%と高く、“徒歩や自転車”の方はわずか19%となりました。(グラフ 5-3-2-16)

グラフ 5-3-2-15 学習塾の場所



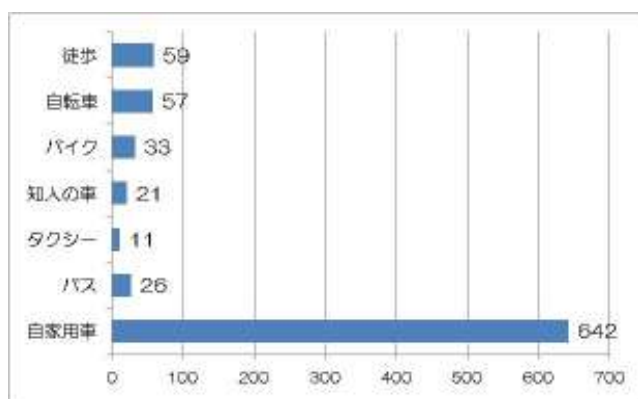
グラフ 5-3-2-16 学習塾への移動手段



日常的な交通手段としては、“自家用車”が圧倒的に多く、総回答数 849 件のうち、徒歩、自転車等の利用件数は、116 件とわずかでした。(グラフ 5-3-2-17)

日常の買い物や、通院等、肝付町内であっても“自家用車”を利用されることが多いと推測されます。

グラフ 5-3-2-17 日常多的な交通手段



③ 情報の入手に関する事項

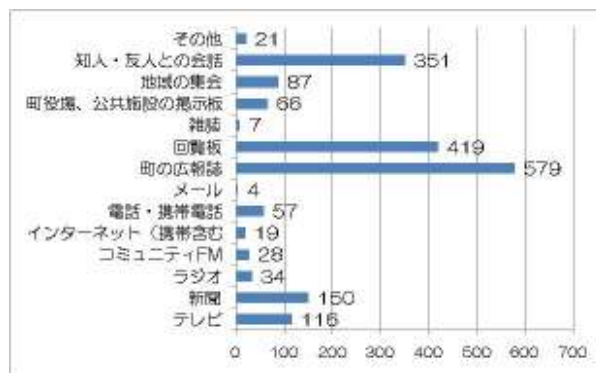
世間一般の情報は従来のメディアである、“テレビ、新聞”で入手している方が大半であり、“インターネット利用”に関しては回答数が、140 と、総回答数の 5.7%にとどまる低い割合となりました。(グラフ 5-3-2-18)

町内の情報については、“広報誌”が 579 件と一番利用されており、次いで“回覧版”が 419 件といったような、住民の方々にとって、従来より慣れ親しまれている手段が高い結果となっています。(グラフ 5-3-2-19)

グラフ 5-3-2-18 世間一般の情報収集



グラフ 5-3-2-19 町内の情報収集



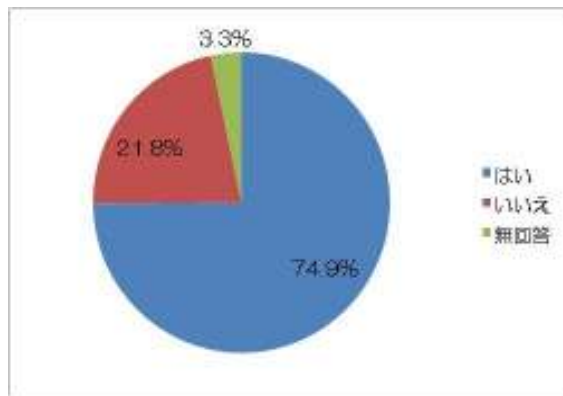
④ 情報環境に関する事項

“携帯電話の保有”に関しては全体で74.9%（非保有21.8%、無回答3.3%）となっており、総務省の平成21年通信利用動向調査（世帯編）（以下、「総務省調査」という。）の96.3%を大きく下回る値となっています。（グラフ5-3-2-20）

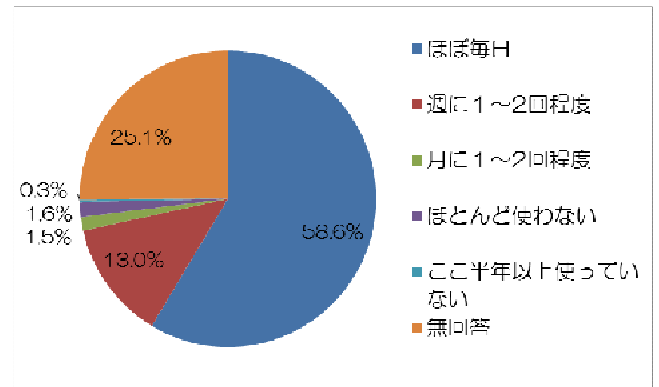
所有者のうち、79%の方はほぼ毎日利用されており（グラフ5-3-2-21）、利用している機能は“通話”、“メール”という順番となりました。（グラフ5-3-2-22）

携帯電話を利用しない理由としては、“必要ないから”が最も多く、次いで“料金が高いから”と“使い方がわからないから”、が同じ割合で続いています。（グラフ5-3-2-23）

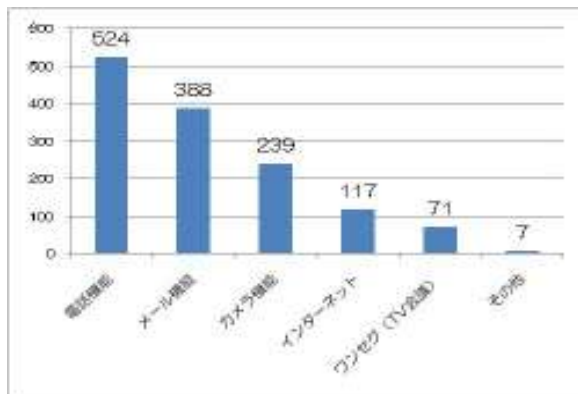
グラフ 5-3-2-20 携帯電話の所有



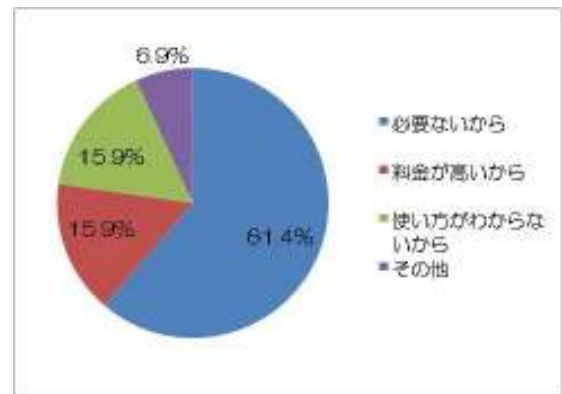
グラフ 5-3-2-21 携帯電話の利用頻度



グラフ 5-3-2-22 携帯電話で利用する機能



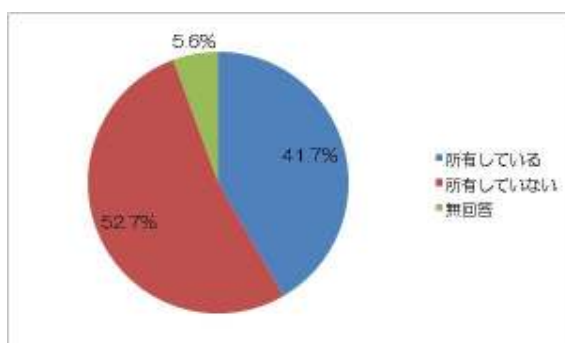
グラフ 5-3-2-23 携帯電話を利用しない理由



パソコン保有率は全体として41.7%（非保有53.4% 無回答4.9%）であり（グラフ5-3-2-24）、こちらも「総務省調査」値である87.2%を大きく下回る値となりました。

また、所有されている方の多くの方が、ほぼ“毎日利用”されており（グラフ5-3-2-25）、さらに利用目的は“インターネット”よりも、主に“文書作成”や“住所録、年賀状作成”に利用されている傾向が多いことがうかがえます。（グラフ5-3-2-26）

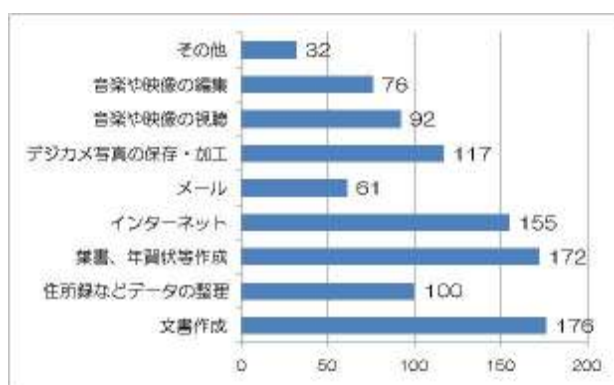
グラフ 5-3-2-24 パソコン所有率



グラフ 5-3-2-25 パソコンの利用頻度



グラフ 5-3-2-26 パソコンの利用機能



ここで、携帯電話、パソコン保有に関して、年齢別のデータと関連付けを行った場合、以下のような結果となりました。全体的に全国平均を下回っていますが、60歳以上に関しては、その比率が大きく減少していることがわかります。(表 5-3-2-1)

表 5-3-2-1 年齢別パソコン保有率、および携帯電話保有率

年齢別	パソコン保有率	携帯電話保有率
18～19歳	75.00%	100%
20～29歳	60.50%	97.40%
30～39歳	69.00%	96.60%
40～49歳	67.30%	92.50%
50～59歳	56.10%	92.10%
60～64歳	41.60%	74.40%
65～79歳	16.70%	47.50%
全体	41.70%	74.90%

また、それぞれの利用形態に関しても同様な関連付から内容を見てみると、

- ・携帯電話でインターネット利用を行うという 117 回答数のうち、60 歳以上での回答数は、わずか 5 件（65 歳以上では 1 件）であり、携帯電話を用いたインターネット利用は高齢者間では極めて少ないことがわかりました。

- ・また、パソコン利用機能に関して、年代別にその利用機能の上位を分析したところ、以下のようにインターネットの利用が全体として低い割合にあるのがわかりました。また、パソコンでの電子メールの利用も全体としてかなり低い割合であることもわかりました。10 代のパソコンでのインターネット利用が低いのは、携帯電話でインターネットを利用している割合が高いことによることが予想されます。

表 5-3-2-2 パソコン利用機能と携帯電話利用機能

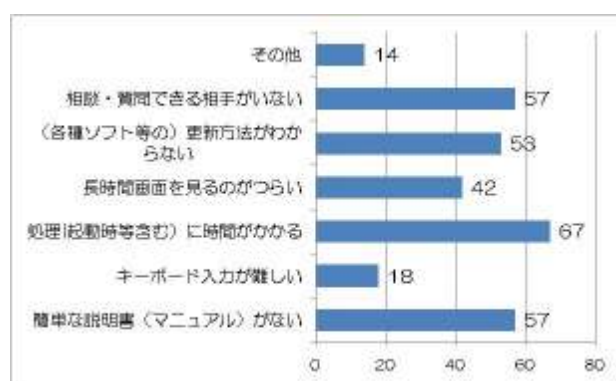
〔世代別パソコン利用機能上位 4 種（全体 9 種）と電子メール機能順位の表示〕

	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上
文書作成	①	②	④	③	①	①	②
住所録作成					④	③	③
葉書等作成			③	②	②	②	①
インターネット利用		③	①	①	③	④	④
電子メール	⑤	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑥
データ保存	④	④	②	④		④	
音楽映像視聴	②	①		④			
音楽映像編集	②						

パソコンを利用するうえで、困っている点に関しては、“処理（起動時間等）に時間がかかる点”が最も多く、次いで、“相談相手がいない”、“簡単なマニュアルがない”といった順になりました。（グラフ 5-3-2-27）

また、パソコンを保有していない理由としては、“必要ないから”が最も多く、次いで“使い方がわからない”からという点が続きました。（グラフ 5-3-2-29）

グラフ 5-3-2-27 パソコン利用上困っている点



グラフ 5-3-2-28 今後入手希望情報通信機器



グラフ 5-3-2-29 パソコンを所有しない理由



⑤ インターネットの利用に関する事項

ご自宅でインターネットを利用されている方のうち、利用年数が5年以上に及ぶ方が、60%以上に及びます。(グラフ 5-3-2-30)

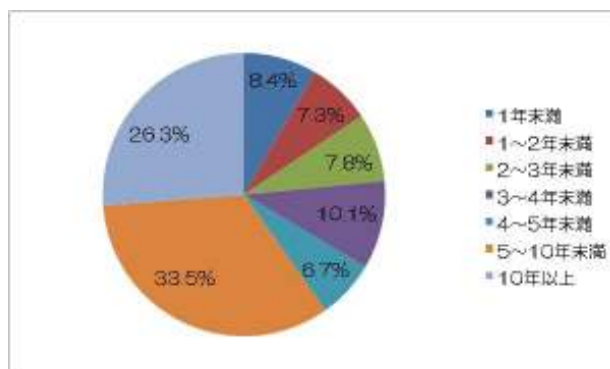
また、インターネット利用者の48%の方がほぼ毎日利用すると回答しています。(グラフ 5-3-2-31)

利用目的はメール、インターネット閲覧が多いなかで、ネットショッピングに利用されている方も多いという結果となりました。(グラフ 5-3-2-33)

インターネット利用者のうち、肝付町役場のホームページを全く閲覧したことがないものが59%、ごくたまにしか閲覧しないものが27%という値となり、行政からの情報発信機能として、現在の町役場のホームページが有効に機能していないと思われる結果も得られました。(グラフ 5-3-2-35)

また、町役場のホームページでの情報で閲覧する割合の高いものは、地域・イベント情報、暮らしや住まいの情報といった身近に話題に関するものでした。(グラフ 5-3-2-36)

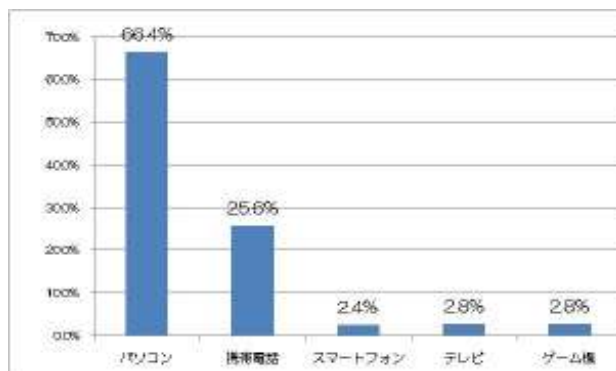
グラフ 5-3-2-30 インターネット利用年数



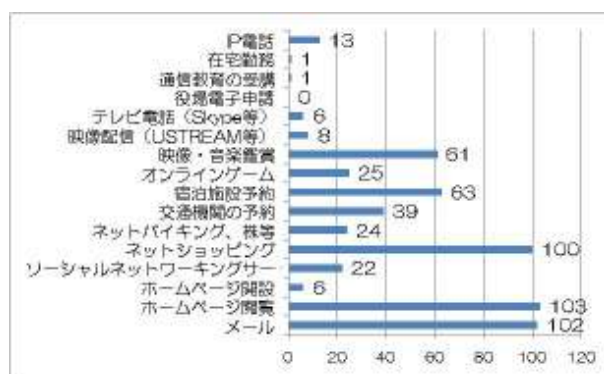
グラフ 5-3-2-31 インターネット利用頻度



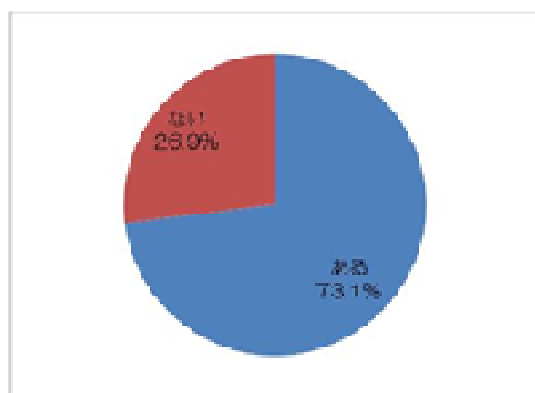
グラフ 5-3-2-32 インターネット利用端末



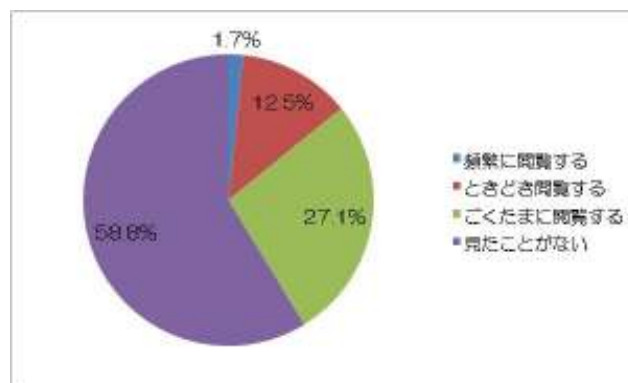
グラフ 5-3-2-33 インターネット利用内容



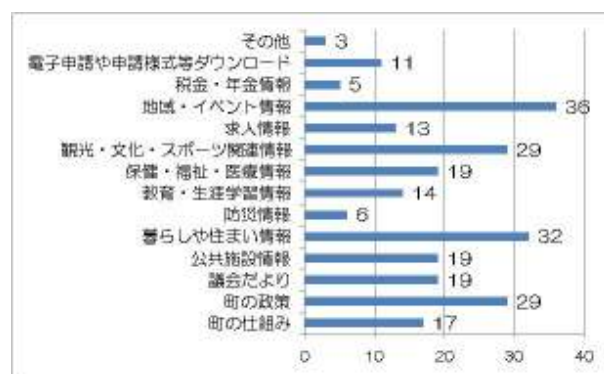
グラフ 5-3-2-34 職場のインターネット環境



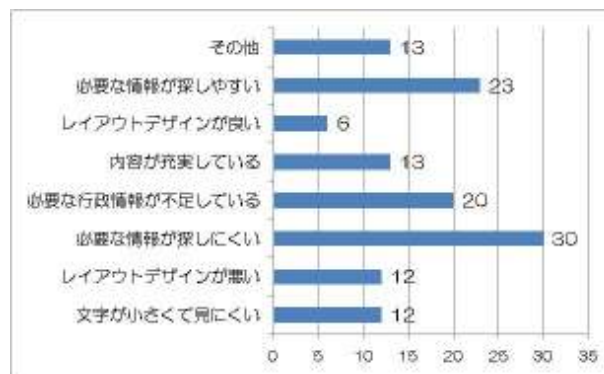
グラフ 5-3-2-35 閲覧経験



グラフ 5-3-2-36 肝付町の HP 閲覧内容



グラフ 5-3-2-37 閲覧経験の感想



ご自宅でインターネット利用をしている方からの回答をもとにした本アンケート調査上における（ご自宅での）インターネット利用率は、全体として 23.9%（未利用 56.7% 無回答 19.4%）という値となり、仮に無回答分を考慮したとしてもかなり低い数値となったことがわかりました。（表 5-3-2-3）年齢別から見た場合、パソコン、携帯保有率と連動しますが、60 歳以上の利用率が極めて低いことがわかります。（グラフ 5-3-2-44）

表 5-3-2-3 自宅インターネット使用率

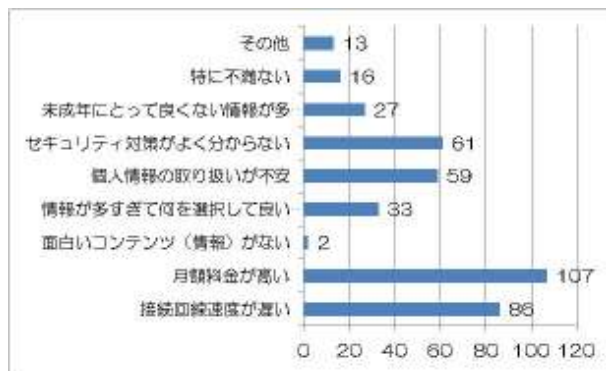
年齢別	自宅インターネット利用率
18～19歳	37.5%
20～29歳	39.5%
30～39歳	55.1%
40～49歳	41.1%
50～59歳	34.8%
60～64歳	16.8%
65～79歳	2.9%
全体	23.9%

*インターネットを利用しない理由記載欄より抜粋

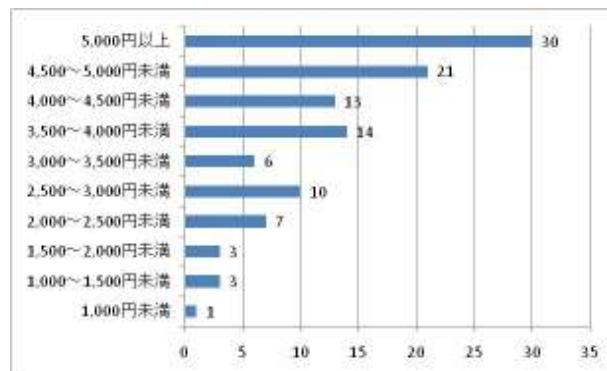
- ・携帯電話で間に合っている為。
- ・会社のパソコンを利用していた為。
- ・子供が所有しています。
- ・現在までインターネット接続が地域まで届いていないと感じていた為。
- ・故障して修理代が高ついたから、光ファイバーになったらパソコンを買うつもりです。
- ・パソコンが壊れた後からは金銭的にも余裕がなく、インターネット等の操作も分からない為。

インターネット利用者の、現状の利用の不満点に関しては、「料金が高い」が一番多く、次いで「速度が遅い」「セキュリティ対策がわからない」等といった内容が続いています。利用者のうち、月額の妥当金額として最も多かった額は、2,000円～2,500円未満でした。

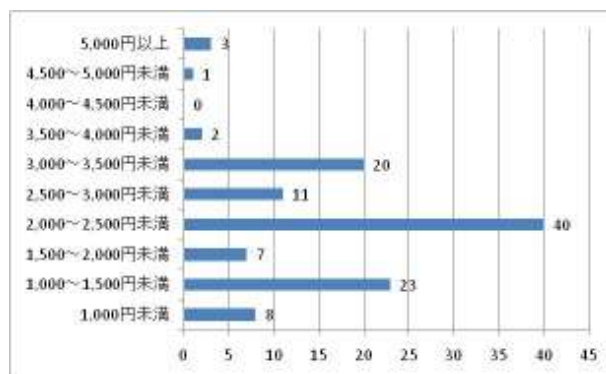
グラフ 5-3-2-38 インターネット利用に関する不満



グラフ 5-3-2-39 現在のインターネット利用料金



グラフ 5-3-2-40 適正と思うインターネット利用料金



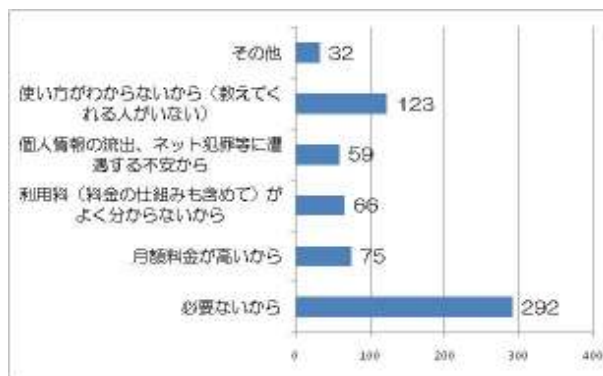
インターネットを利用しない理由に関しては、「必要ないから」が一番多く、次いで「教えてくれる人がいないから」「料金が高いから」等といった内容が続いた。(グラフ 5-3-2-41)

未利用者のうち、月額の妥当料金として最も多かった額は、1,000円程度であり、インターネット利用者が想定する適正月額よりも少額の値となりました。(グラフ 5-3-2-43)

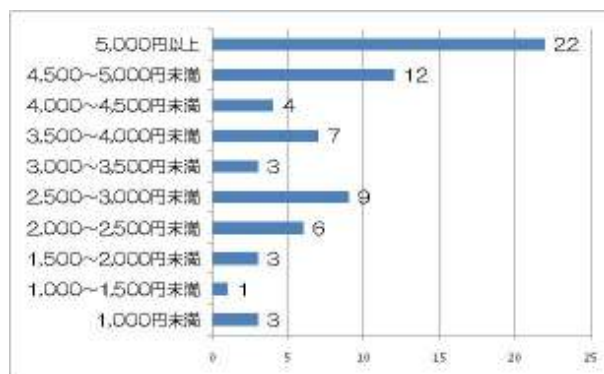
また、未利用者のうち、今後利用したいと思っているものは108人であり、これは利用意向の回答をいただいた全体数425名のうち約1/4であり、検討中(迷っている)の数も含めると、4割以上の利用潜在者がいることになります。(グラフ 5-3-2-44) 逆に利用したくないというものも126名、約3割近くいることになります。

利用したくないものを年齢別で見た場合、全体で8割が60歳以上の方でした。(表 5-3-2-4)

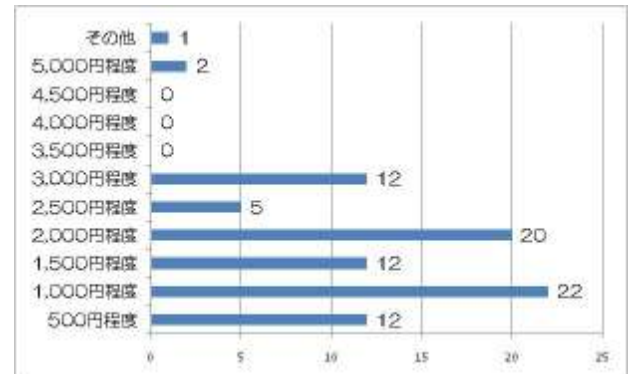
グラフ 5-3-2-41 インターネット利用していない理由



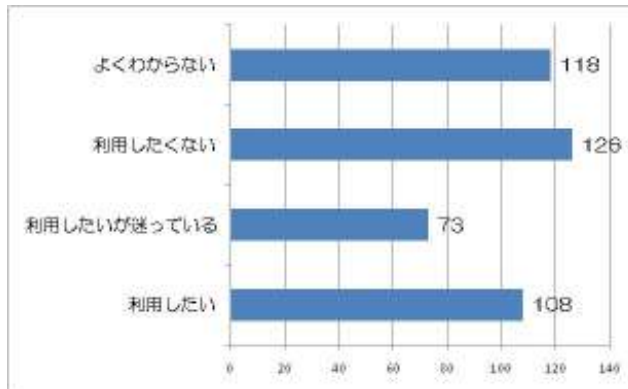
グラフ 5-3-2-42 高いと思うインターネット利用料金



グラフ 5-3-2-43 適正と思うインターネット利用料金



グラフ 5-3-2-44 今後のインターネット利用意向



グラフ 5-3-2-45 職場のインターネット環境

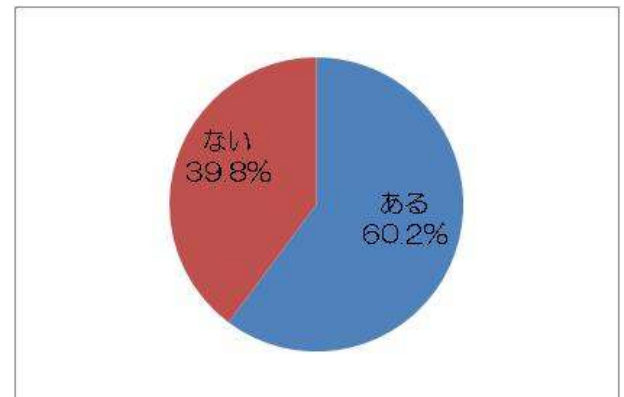


表 5-3-2-4 利用意向

年齢別	利用したい	迷っている	利用したくない	わからない	合計
18～19歳	3人	1人		1人	5人
20～29歳	6人	5人	3人	5人	19人
30～39歳	8人	4人	4人	6人	22人
40～49歳	24人	8人	5人	14人	51人
50～59歳	28人	23人	12人	27人	90人
60～64歳	28人	13人	25人	16人	82人
65～79歳	10人	19人	76人	49人	154人
年齢無回答	1人		1人		2人
全体	108人	73人	126人	118人	425人

⑥ 肝付町で敷設される光ファイバによるインターネットに関する事項

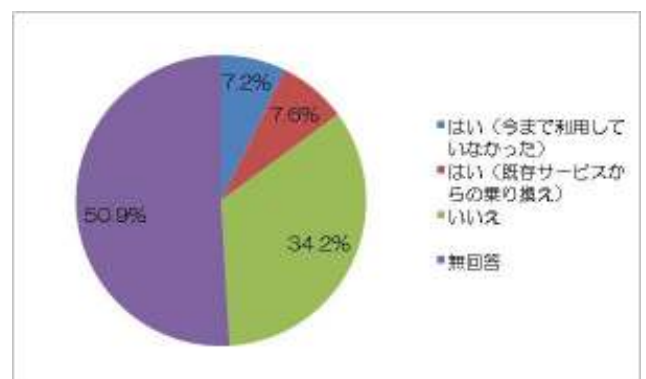
町で敷設される光ファイバによるインターネットについての理解度は、無回答者を除いたとしても、「あまり理解できていない」「わからない」、を合わせると、約6割以上の方が理解していないことになります。

また、加入されている方は、184人であり、本設間には約7割の無回答がありますが、この値はアンケート回収者数全体の24.6%という低い値であり、前述の理解度の件も含め、更なる住民への説明等が必要と考えられます。(グラフ 5-3-2-46)

グラフ 5-3-2-46 光ファイバーサービス理解度



グラフ 5-3-2-47 サービス加入申込



ここで、他の要因との関連付けを行ってみました。
理解度に関して、回答者の中での年齢別構成を集計してみると、
下記のとおりとなり、高齢者層にかかわらず、どの年齢層においても、
理解度があまり得られていないことがわかります。
(表 5-3-2-5)

表 5-3-2-5 年齢別サービス理解度

年齢別	十分理解	ほぼ理解	あまり理解できない	わからない	計
10～19		4人	1人	3人	8人
20～29	1人	5人	13人	15人	34人
30～39	6人	15人	21人	12人	54人
40～49	4人	28人	47人	23人	102人
50～59	4人	31人	69人	42人	146人
60～64	2人	23人	35人	45人	105人
65～79	7人	18人	38人	99人	165人
年齢無回答	1人		1人	1人	3人
計	25人	124人	225人	240人	614人

また、サービス加入に関しても上記のように年齢別の集計を行うとともに、さらに、参考までに設問 4 で回答いただいた、現在ご自宅でインターネットを利用している人数値までも重ねてみると、以下ようになります。(表 5-3-2-6)

表 5-3-2-6 光ファイバーサービス申込み状況(年齢別他)

年齢別	新規	既存乗り換え	計	現在自宅でインターネットを利用
10～19	2人		2人	3人
20～29	5人	6人	11人	15人
30～39	19人	10人	29人	32人
40～49	28人	17人	45人	44人
50～59	38人	19人	57人	57人
60～64	16人	11人	27人	21人
65～79	6人	6人	12人	7人
年齢無回答	1人		1人	
計	115人	69人	184人	179

仮に、新規の数をそのまま純増加数とカウントし、さらに設問4で回答いただいた利用者のうち、上記の数が乗り換えた、とすると、町内における自宅でのインターネット利用者は、294名となり、結果としてアンケート調査上の利用率は、37.0%と、設問4で算出した現行の利用率23.9%を13.1%引き上げることになります。

また、これら全体を地区別で集積してみたところ、下記のとおりとなりました。理解度に関しては、各地区とも大体同じような分布度合いであり、加入者に関しても、高山地区と内之浦地区は新規・乗り換えの合計で、144人：39人という値であり、両地区の人口比率をほぼ反映したような比率になっていることがわかりました。(表5-3-2-7)

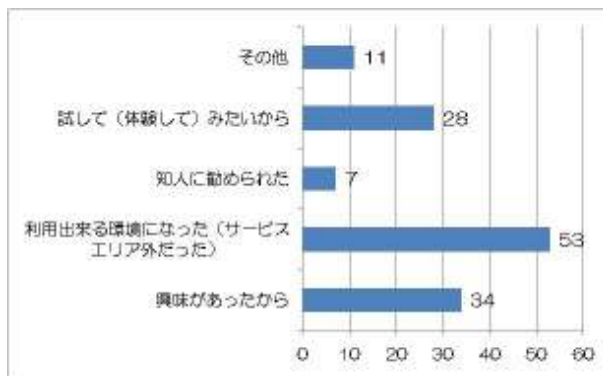
表 5-3-2-7 地区別のサービス理解度と加入状況

(単位：人)

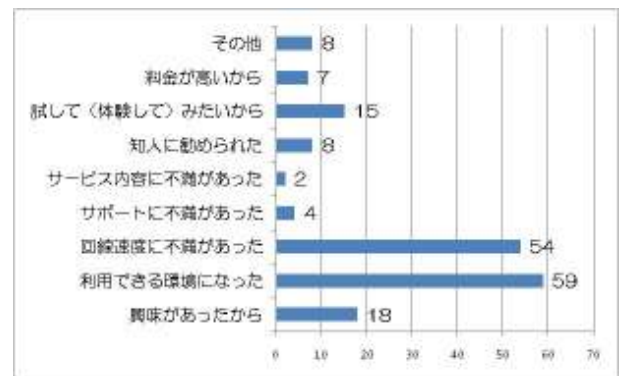
	富山	宮下	後田	前田	新富	野崎	波見	岸良	南方	北方	高山	内之浦
十分理解		1	1	5	6	1	2	0	5	4	16	9
ほぼ理解	6	2	20	26	27	4	5	8	15	11	90	34
あまりわからない	10	9	35	46	50	12	13	8	24	17	175	50
わからない	12	8	39	38	54	11	9	18	31	19	171	69
加入(新)	4	4	19	24	38	4	2	2	11	6	95	19
加入(換)	2	4	6	15	18	1	3	4	7	9	49	20
自宅インターネット利用	5	6	26	47	52	5	4	4	17	15	145	36

新規申し込みの理由、また既存サービスからの乗り換え理由については、光ファイバーによるインターネット環境が利用できるようになったから、が最も多く、また、具体的な申し込みに際しては、子供のために必要と思いつつも、ネット犯罪やウィルス等セキュリティの面から迷われたといった意見も寄せられました。

グラフ 5-3-2-48 お申し込みの動機



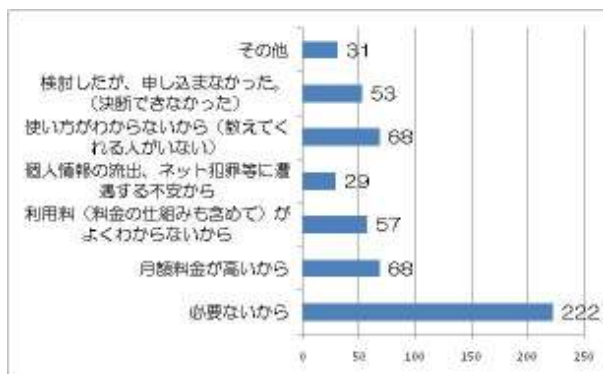
グラフ 5-3-2-49 乗り換えの理由



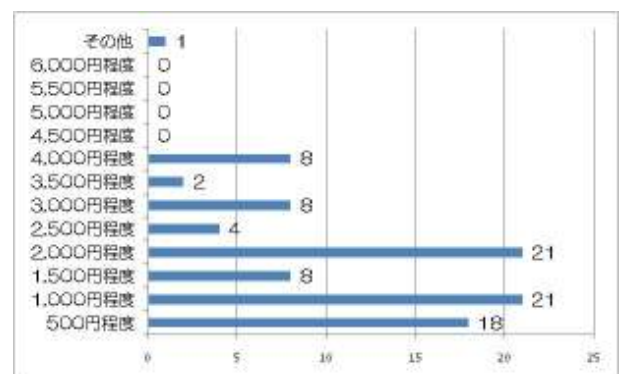
申し込まない理由としては、必要ないからが最も多く、次いで月額料金が高いから、が続いていますが、料金と同じ割合で、使い方がわからないから、といった回答もなされており、必要性和併せ、具体的な操作方法等に関しても、わかりやすく説明していく機会が必要と思われます。（グラフ 5-3-2-50）

また、申し込みをされていない方が想定する適正な月額料金は、1,000 円程度、あるいは 2,000 円程度、という回答が最も多く、これは設問 5（インターネット未利用者ほの設問）における回答とほぼ同様の結果となりました。（グラフ 5-3-2-51）

グラフ 5-3-2-50 申し込みしない理由



グラフ 5-3-2-51 適正な月額料金



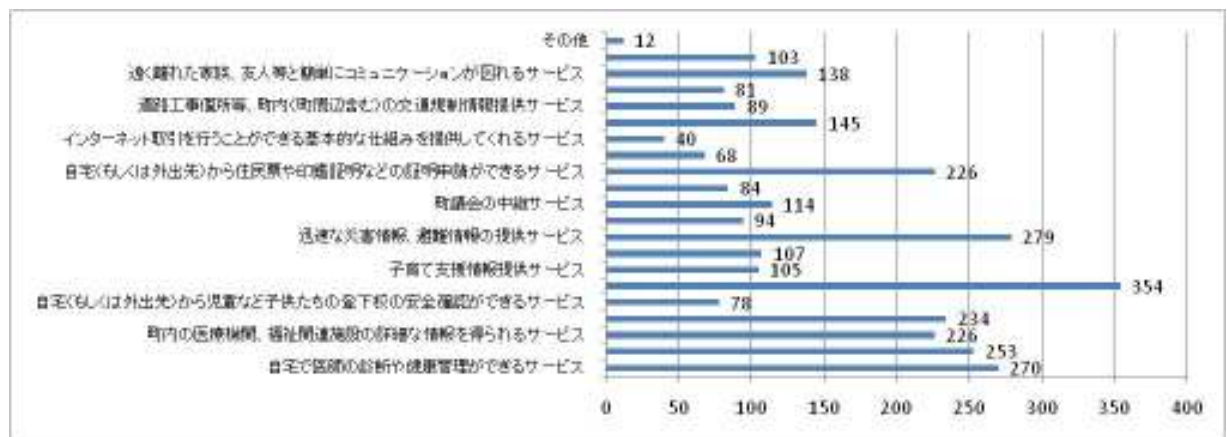
⑦将来の肝付町の事について

今後提供を受けたいサービスとして多かったものは、

- ・独居老人の安心安全を見守るサービス
- ・迅速な災害情報、避難情報の提供サービス
- ・自宅で医師の診断や健康管理が受けられるサービス
- ・緊急時に自宅で応急措置情報を直接得られるサービス
- ・自宅から簡単に医療・福祉施設の予約ができるサービス
- ・医療機関、福祉関連施設の詳細情報が得られるサービス
- ・自宅から住民票、印鑑証明書などの申請ができるサービス

といった順番で回答がなされ、安心・安全分野に関する要望が高いことがわかります。(グラフ 5-3-2-52)

グラフ 5-3-2-52 今後どのような地域サービスを受けたいか

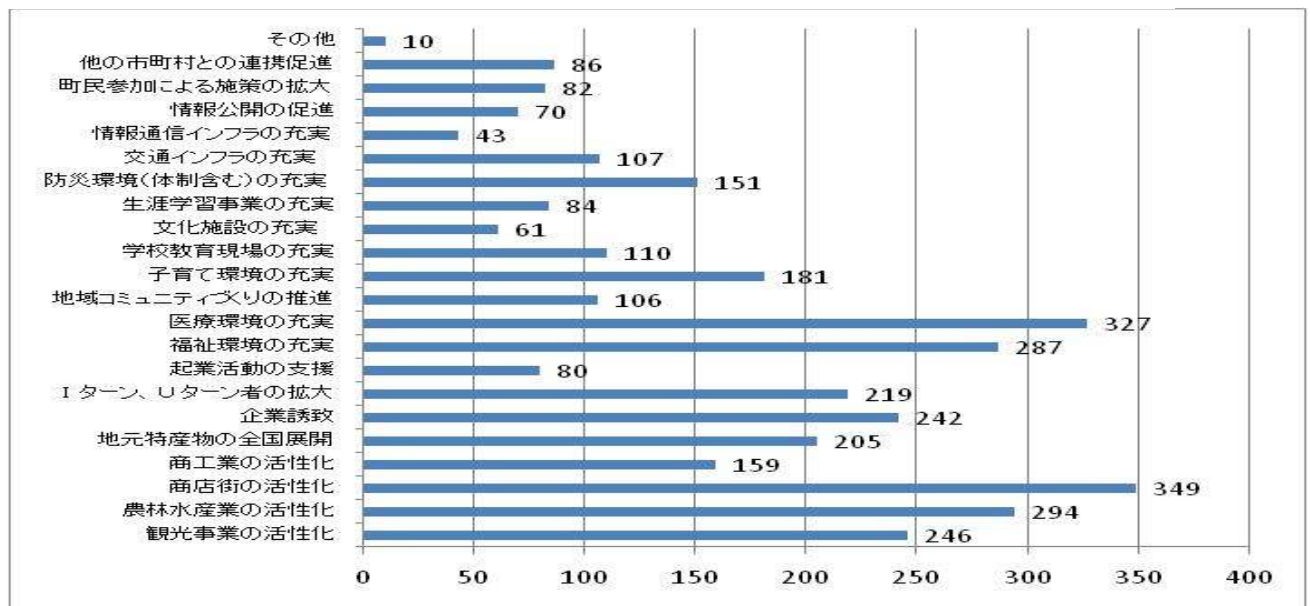


また、今後の肝付町の発展のために推進すべき内容として多かったものは、

- ・商店街の活性化
- ・医療環境の充実
- ・農林水産業の活性化
- ・福祉環境の充実
- ・観光事業の活性化
- ・企業誘致
- ・Iターン、Uターン者の拡大
- ・地元特産物の全国展開

といった順番であり、産業振興から保健福祉医療に至る分野まで幅広い要望が寄せられています。この他にも文化遺産、自然の活用による地域振興や、高齢者が住みやすい町づくり、Uターン者が増えるような町づくりを推進してほしいといったようなコメントも寄せられており、地域情報化の更なる推進が望まれていることが理解できます。(グラフ 5-3-2-53)

グラフ 5-3-2-53 将来の地域発展のため、どのようなことを推進すべきか



5.4 現状課題の分析

5.4.1 インターネット利用率の低迷

住民アンケート調査の結果、現在の肝付町におけるインターネット利用率は23.9%という低い値となりました。これを年齢別で見ても、50%を超えているのは、わずかに30歳代だけであり、幅広い年齢層において、インターネット利用率が低迷していることが判明しました。未利用者の理由の大半は、その必要性を感じていないから、ということとなっており、そのためには、町民の方々に対して、インターネット活用の利点について、改めて詳しく紹介する場が必要であると同時に、インターネットを通じた様々な住民サービスの創出を図り、日常の社会生活の中で、具体的にインターネットが活用される場面をもっと多く作っていくことも大切な要因であると思われます。さらに、これからの肝付町の発展に向けては、町からの様々な情報発信は欠かせない課題ですが、それを効率・効果的に行っていくためには、まさにインターネットを有効に活用した取り組みが必要であり、その取り組みの中に一人でも多くの町民に参加いただき、当該活動を通じたインターネットへの関心・理解の醸成を図っていくことも有効な手段のひ

とつであると思われます。いずれにしても、今後の地域情報化を推進していくに際し、町内におけるインターネット利用率の向上は、その根幹的部分を成すものであり、単なる普及啓発活動の推進だけでなく、インターネットそのものが、より身近に感じられるような幅広い観点からの取り組みが必要になってくると考えられます。

5.4.2 行政サービス向上に向けた効率的な情報通信システムの構築

現在肝付町役場においては、先に記述したように、総合行政システムの他、各組織ごとに個別システムも運営されており、それらの数は、現在、13の部署で合計35に及んでいます。そのうちシステム連携が図られているのは、わずか5に過ぎず、大半は独立したシステムとして運営されています。それら35のシステムに関して、主にシステム連携の観点から、各所管組織に現状調査を行ったところ、下記表のような結果となりました。

利用頻度及びシステム数	毎日 23システム	1／週 4システム	1／2週 1システム	1／月 1システム	特定時期 6システム
総合行政システムと連携中	1システム				1システム
その他システムと連携中	2システム				1システム
他システムとの連携希望有	7システム	2システム	1システム		

毎日の業務に活用されているシステムを例にとった場合、現状で連携が図られているのは3システムで、今後連携を希望しているものは7システムですが、仮に双方を足しても全体の半分にも満たない状況となります。費用対効果等、総合的な判断が必要になってくるとは思われますが、こういった現状も鑑み、情報システム全体の効率化に関しては、今後、より一層検討を進めていく必要があります。

また、住民アンケートの結果にて判明した、町役場ホームページの閲覧率の低さについても、今後、掲載情報の充実、タイムリーな情報更新等、内容の抜本的な見直しを進めていくことで改善を図り、町役場からの情報発信媒体として、町内外で、幅広く活用してもらえそうな取り組みも重要となってきます。

5.4.3 わかりやすい情報化施策の必要性

今回実施した住民アンケートによると、現在、肝付町が進めている光ファイバー整備事業によるインターネットサービスの内容に関して、約6割以上の方が理解されていない結果が判明しました。住民の方々にとって、そもそもインターネットそのものに関する理解度が、あまり得られていない現状においては、ある意味仕方のないことではありますが、だからこそ、情報化施策の説明に関しては、今後十分な配慮を行っていく必要があると考えられます。その際大事なことは、出来る限りわかりやすい内容で、その意義、目標等を伝えていくことであり、現在、肝付町が直面している様々な課題解決に向け、情報化推進がいかにより有益であるかを示していく努力が必要です。そうすることで、今回の光ファイバー整備事業に関する理解度も広がっていくとともに、住民自らが地域情報化事業に積極的に参画していただけるような動きが出てくるとも期待できると考えられます。